

ちいさい おおきい

なまえ

◎ めあて

こえに 出して 「ちいさい おおきい」を 四かい よみましょう。

☆ きょうかしよ 8ページを ひらきましょう。

☆ 一かいめは、ふつうの こえで よんで みましょう。

☆ ニかいめは、こえを 大きくしたり、小さくしたり して よんで みましょう。

※ ほかにも 「おおきくって おおきくって おおきくって」をだんだん 大きな こえで よんでみると おもしろいですね。

「おおきい」は、大きなこえ
「ちいさい」は、小さなこえで
よんでみよう。



☆ 三かいめは、からだを ちぢめたり、せのびを したり しながら、よんで みましょう。

※ おうちの なかを あるきながら よむのも たのしいですよ。

☆ 四かいめは、じぶんで かんがえた よみかたで こえに 出して よんで みましょう。

ちいさい おおきい

なまえ

◎ めあて

詩の ひょうげん について かんがえて みましょう。

☆ ことばを くりかえして つかっている ところを さがして かきだしましょう。

ちいさい おおきい
ちいさい おおきい
おおきくって おおきくって
ちいさくって ちいさくって

ことばを くりかえすと
いんしょうに のこるね。
詩では くりかえしが
よく つかわれているよ。

☆ 「おおきい」もの なかにある
「ちいさい」もの かきだしましょう。

おおきいもの	ちいさいもの
ぞうさん かばさん	なみだ むしぼ

☆ 「ちいさい」もの なかにある
「おおきい」もの かきだしましょう。

ちいさいもの	おおきいもの
かえる ありさん	おなか にもつ

大きいもの なかに ある
小さいもの。
小さいもの なかに ある
大きいもの。
ほかにも ないかな。そうぞうして
みましょう。



ちいさい おおきい

なまえ

◎ めあて

「ちいさい おおきい」の詩を しようかい しよう。

☆ 「ちいさい おおきい」のなかで おきにいりの
ところを しようかいしましょう。

(れい) 「ぎんぱへつて きんぱへつて ちいさくつて ちいさい めだかの あくび」の

とく。

☆ どうして おきにいりなのか りゆうを かきましよう。

(れい) この しを よんでから いえで かつている めだかが いつも 口を パクパク

まはて いるのが あくびを しているみたいに 見えて おもしろくなったから。

☆ ちいさいに じぶんの すきな よみかたで
「ちいさい おおきい」を こえに 出して よみましよう。

つづけて みよう

なまえ

◎ めあて

日記の とくちょうを かんがえましょう。

☆ 教科書の 12 ページを ひらきましょう。

☆ おおき まきさんの 日記を よんで、
日記の とくちょうが あらわれているところを
書き出しましょう。

日記の とくちょう

○ とくちょう1 いつの できごとか 書いているところ。

四月二十四日(金曜日) 朝、きかえていたら

○ とくちょう2 できごとを くわしく 書いているところ。

ぼろっと下におちてしまったから、あわてて口にいれました。

○ とくちょう3 会話を 書いているところ。

「はが、ぬけたの。」 「おめでどい。」

☆ 13 ページの 日記のたねを かくにんしましょう。

つづけて みよう

なまえ

◎ めあて

日記に書いて、まいにちの生活をふりかえりましょう。

☆ 「日記の たね」を見つけて、日記の とくちようを
いしきして 日記を 書きましよう。

(れい) 四月十八日(土曜日) はれ

今日は、朝からいえのそうじのおてつだいをしました。そうじをしていると、たんす
の

すきまから、さがしていたおもちゃがころっと出てきました。

ほくが、

「あった。」

と、さげんだら、おかあさんが、

「よかったね。」

とごうじて、いっしょにたのびこんでくれました。

なまえ

書くと おなじでも、読むと ちがう ことば

☆ 教科書の 16 ページを ひらいて、声に 出して
文しやうを 読みましよう。

☆ 音の 調子で いみが ちがう ことば「はし」「あめ」
で文をつくり 声に 出して 読んでみましよう。
はしをつかって ごはんを たべる。

(れい) ながい はしを わたる。

おいしい あめを なめる。

(れい) はげしい あめが ふってきた。

☆ 書くとおなじでも、読むと ちがう ことばは、
ほかにも たくさんあります。
声に 出して 読んでみましよう。

はなが さく

目と はなの さき

きが ながい

きを うえる